

住民こそ主人公・住民のための市政を

# 明日の相模湖

No. 907

2024年10月号

発行：日本共産党相模湖支部

住所：相模原市緑区寸沢嵐794-3

宮崎あき子気付

電話：042(685)1046

mail: jcpsagamiko@gmail.com

## 新内閣発足・総選挙

# 裏金隠しの党利党略に審判を

### ■重要な審議にフタ

石破首相は総裁選で「全閣僚出席の予算委員会で、政権は何を目指すかを国民に示した上で信を問うべきだ」と、早期解散に慎重な姿勢を示していました。にもかかわらず、総裁に決まるやいなや9日に衆院を解散し、15日公示、27日投開票の総選挙を行うと表明。これでは予算委員会も開けません。まともな論戦を回避して追及を逃れば選挙に勝てるという思惑が見え見えで、追い詰められた石破新政権の姿が表れています。権力を手にした途端にこれまでの発言を簡単に覆すようでは、国民の政治不信は払しょくどころか、ますます深まるでしょう。

首相就任からの戦後最短の解散は、裏金事件や統一協会と自民党との組織的癒着の徹底解明、能登の地震・豪雨災害への支援のための補正予算の編成など、重要な国会審議にフタをするものです。

### ■軍事同盟強化の布陣

新内閣の顔ぶれでは、内閣の要である官房長官に旧岸田派の林芳正氏を再任。石破首相は「岸田政権を基本的に引き継ぐので外交・安全保障も経済政策も連続性がなければならない」と述べています。

党役員には日米軍事同盟絶対・大企業優遇の悪政を推進した岸田政権を引き継ぎ、さらに加速させる布陣です。



閣僚や自民党役員には石破首相自身を含めて防衛相経験者が5人も就任し、軍事突出の姿勢が目立ちます。

防衛相に就任した中谷元氏は安倍内閣で集団的自衛権行使を容認する安保法制を成立させた時の防衛相です。首相は「日米同盟を米英なみに引き上げることが私の使命だ」といって「アジ

ア版NATO（北大西洋条約機構）の創設、核兵器の「共有」を主張しており、安倍・岸田政権を超える軍事同盟強化の布陣といえます。

### ■経済失政に無反省

#### ジェンダー平等には程遠く

財務相の加藤勝信氏は、総裁選で「アベノミクス（安倍元首相の経済政策）を推進した精神が私に染みついている」と述べ、アベノミクスによる異次元の金融緩和による円安、物価高が今、国民を苦しめていることに無反省で、国民にさらなる犠牲を強いる新内閣の姿勢を示しています。

一方、女性閣僚は20人中2人で、岸田内閣の5人から大きく後退。政府は政治分野などで指導的地位を占める女性の割合を「20年代の早期に30%程度」にする目標を掲げますが、ジェンダー平等には程遠い状況です。

党利党略の早期解散は、石破新政権が裏金問題でも経済問題でも平和問題でも、早くも行き詰まりに陥っている表れでもあります。

総選挙ではこの悪政に厳しい審判を下しましょう。日本共産党は自民党政治を大本から変える対案を訴え、躍進を勝ちとる決意です。



自然観察シリーズ  
NO. 575  
植物

アズキの原種とダイズの原種

マメ科

猛暑を避けて、少し涼しい山寄りの道を観察しながら散歩していると、マメ科の蔓草が

何種類か見つかりました。

ヤブツルアズキはつる草で、アズキの原種と云われ、草藪で他の草にからまつたり、地面を這ったりして、黄色い花を咲かせます。アズキの仲間の花は、他のマメ科の花とはちょっと変わった形をしています。すでにアズキとそっくりな小さな豆果がたくさんついていました。ツルマメは、ダイズの原種と云われ、日当たりの良い草藪のススキなどからまっっている茎も細いつる草です。夏、小さな紫色の花を咲かせていました。二週間後に再び訪れると、茎にダイズそっくりな豆果がたくさん実っていました。古い時代に中国で改良されて、現在の栽培種のように立ち性で、実も大きくなつたと見られています。

湖畔で多彩なイベント

10月6日、相模湖公園で「ふれあい広場」が行われ、同時に第6回目になる「足こぎスワン世界大会」と公民館事業の「第17回相模湖市民健康まつり」が行われました。相模湖ふれあい広場は相模湖地域の「環境保持・地域活性化」などをテーマとし、今回で37回目になる歴史あるイベントだそうです。あいにくのお天気でにぎわいはいまひとつでした。

秋はいろいろなイベントが続きます。11月3日には恒例の「小原宿本陣祭」。11月30日には「福祉のつどい」などが予定されています。都合をつけて参加してみたいかがでしょうか。



↑ 足こぎスワン世界大会  
→ 出店が並ぶ湖畔。緑区のマスコットも参加。

